



中国の初級日本語教科書における実現可能の扱いに関する考察

宋, 瑩

(Citation)

国際文化学, 39:50-70

(Issue Date)

2026-03-27

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100503440>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100503440>



中国の初級日本語教科書における実現可能の扱いに関する 考察

Realized Potential in Japanese: A Study of Its Pedagogical Representation in Beginner-Level Textbooks Used in China

宋 瑩
Ying SONG

概要

本研究は、中国の高等教育機関で使用されている初級日本語教科書 6 種およびそれに対応する学習者用参考書・教師用参考書を対象に、実現可能の取り扱いを詳細に分析したものである。分析の結果、すべての教科書に実現可能を示す例文が見られた一方で、その提示方法には顕著な差が確認された。特に『総日』のみが実現可能を独立した文法項目として明示的に導入していたのに対し、他の 5 種の教科書では、実現可能に関する明確な記述は見られなかった。また、多くの教科書では否定形式の実現可能を中心に提示しており、学習者が中国語の「没能」などに対応づけて理解する傾向が強く、肯定形式の実現可能の習得が困難であることが示唆される。さらに、練習問題においても実現可能の意味理解を促す工夫は十分とはいえ、多くは他の文型練習の一部として登場するにとどまっていた。これらの結果から、中国人日本語学習者が実現可能を適切に運用できない一因として、教科書における明示的説明および体系的な練習の不足が示唆される。今後は、潜在可能との区別を明確にしたうえで、文脈を重視した段階的かつ明示的な導入が求められる。

キーワード

日中対照、実現可能、中国人日本語学習者、教科書分析

I はじめに

大場（2012）は、日本語学習者の文において次のような誤用例が見られることを指摘している。

- (1) 厳しい先生の下で勉強したので、よい論文を発表した。（発表できた）

(大場 2012,p.1)

(1) の場合、「よい論文を発表した」よりも「よい論文が発表できた」と表現する方が自然であるとされる。「できる」という可能の形式自体は、初級段階の早い時期に導入される基本的な文法項目であり、形式そのものの習得が難しいとは考えにくい。それにもかかわらず、このような誤用が生じるのはなぜだろうか。日本語記述文法研究会編(2009)によれば、現代日本語の可能表現は「その動作の実現に言及するかどうか」という基準に基づき、主に潜在可能と実現可能の二つに大別されるとされている(以下の(2)と(3)は日本語記述文法研究会編 2009,p.281 より引用)。

(2) そのときその手紙が書けたのに書かなかった。(潜在可能)

(3) 昨日ようやくその手紙が書けた。(実現可能)

(2) は、その状況において動作が実現する可能性があったことだけを表す潜在可能であり、(3) は、動作が実際に実現したことを表す実現可能である。したがって、(1) の誤用は、本来(3) のように実現可能を用いるべき場面で、その形式が適切に用いられていないことに起因すると考えられる。

日本語教育の現場では、実現可能は潜在可能ほど重視されていない。大場(2012)は初級段階で潜在可能のみが教えられ、実現可能はほとんど扱われていないこと、さらに、実現可能の意味を学習者に説明することが難しいため、指導が不十分になりやすいことを指摘している。また、村上(2015)は、日本国内で市販されている初級日本語教科書を調査した結果、多くの教科書が潜在可能に重点を置いており、実現可能を文型として扱う教科書が少ないことを指摘している。さらに、取り上げられている場合でも、主に実現可能の否定形式に焦点を当てていることが確認されている。このように、潜在可能中心の指導のもとで、学習者が潜在可能と実現可能の区別を十分に認識しないまま、学習を進めているのが現状である。それにもかかわらず、初級の教科書には、実現可能を含む例文がさりげなく取り入れられていることがある。教科書は日本語学習者にとって中心的な学習媒体である。日本に滞在する学習者は日常生活の中で日本語に触れる機会が多いが、海外の学習者にとっては、教科書への依存度が高い。そのため、教科書における文法項目の扱いは、学習成果に影響を及ぼすと考えられる。したがって、実現可能が十分に上げられていない現状は、特に海外の学習者にとって深刻な課題である。

(1) のような誤用は、必ずしも特定の母語話者に限られるものではないが、筆者のような中国人日本語学習者においても、おそらく(1) のような場面では可能動詞を用いないのではないかと考えられる。朱(1982)によると、中国語における可能表現は、主に二つの形式から構成されるとされている。一つは、「能」「会」「可以」といった助動詞を用いて、その後に動詞をつけるという形式であり、もう一つは、動詞と補語成分との間に「得／不」を挿入する形式で、いわゆる「可能補語」と呼ばれるものである。

(1) のような文脈で現れる自然な中国語を考えると、「因为在严厉的老师下面学习, 所以发表了很好的论文」となる。この文では、助動詞(*能发表/*会发表/*可以发表)や

可能補語(*发表得)を用いず、単に完了を表す「了」のみが用いられる。そのため、中国人日本語学習者は上記の中国語の文を日本語に訳す際に、可能動詞を使用せず、「発表した」と表現してしまう傾向があると考えられる。

なお、否定の実現可能の場合は、たとえば以下のような例がある。

- (4) 今年は雪が少ししか降りませんでしたから、スキーができませんでした。

今年只下了一点雪，所以没能去滑雪。筆者訳

(『みんなの日本語』初級Ⅱ、27 課)

否定の場合は、否定を表す「没」と共に助動詞「能」が用いられ、動作が実現できなかったことが表現されている。そのため、中国人日本語学習者は、否定形式の実現可能に対応する「没能」のような形式を手がかりに理解を進める一方で、肯定形式の実現可能への気づきを得にくくしている可能性があると考えられる。

以上を踏まえ、本稿では、中国で使用されている初級日本語教科書を対象に、実現可能の扱われ方を調査し、中国人日本語学習者が実現可能を十分に使いこなせない要因の一つとして、教科書の記述および提示方法がどのように影響しているのかを検討することを目的とする。本稿では、その第一段階として、教科書の調査を行い、問題点を指摘する。この考察は、日本語教育における指導内容や指導方法を検討する上で重要である。中国の日本語教科書における記述に偏りや不足が見られる場合、その知見に基づき、より効果的な指導法への改善が求められるだろう。

II 先行研究

2.1 可能の意味を表す形式

渋谷(1993)は、現代日本語の標準語において、可能の意味を表す形式には、次のものがあると記述している。

(A) 可能動詞：書ケル・見レル

(B) 動詞未然形+助動詞(レル)・ラレル：(書カレル)・見ラレル

(C) デキル：

・名詞+デキル：勉強デキル

・名詞+ガ+デキル：勉強ガデキル

・動詞連体形+コトガデキル：勉強スルコトガデキル

(D) 動詞連用形+ウル・エル：勉強シウル・勉強シエル

(渋谷 1993,p.6)

ここで(A)可能動詞と呼ばれているものは五段動詞の可能形式のことを指している。(B)について、一段動詞やカ変動詞は助動詞ラレルの形をとったものが標準的な形式とみなされており、五段動詞に「レル」が付いた形は、自発の「思ワレル」などに限られているとさ

れている。また、(C) デキルについて、原則としてサ変動詞類に対応する可能形式であるとされる。

奥田(1986)は可能表現を「可能表現の形態論的な手つづき」によるものと「可能表現の語彙・構文的な手つづき」によるものに分け、それぞれについて記述している。前者は可能動詞²⁾に相当し、後者は「することができる」という形を指すものである。

奥田の分類における「可能表現の形態論的な手つづき」は渋谷(1993)の(A)と(B)に対応し、「可能表現の語彙・構文的な手つづき」は(C)に対応すると考えられる。

これらの形式は、いずれも「可能」の意味を表すが、意味機能の観点からみると、同一形式であっても、潜在可能と実現可能の用法が存在する。ただし、実現可能を表す場合、(D)は用いられることが少なく、(A)、(B)、(C)の3つの形式が主として用いられている。

2.2 実現可能とは

可能表現の意味について、奥田(1986)は、「動作・状態が人あるいはものにそなわっている、ポテンシャルな特性としてとらえられているときには、可能表現の文は可能あるいは不可能を表現しているし、いちいちの具体的な現象として動作・状態がとらえられているときには、実現あるいは非実現を表現している」(p.208)と説明し、動作・状態が「アクチュアル」であるか、「ポテンシャル」であるかといった性質は、文の **temporality** の中に現れてくる場合もあれば、場面や文脈によって方向づけられる場合もあるとされる。また、奥田は「することができる」であっても、「可能動詞」であっても、述語とする可能表現の文は、多くの場合「その現在のかたちにおいて、可能あるいは不可能を表現しているが、その過去のかたちにおいては実現あるいは非実現を表現している。」(p.208)と指摘している。

渋谷(1993)も同じ立場をとり、可能の意味は、ある動作が実現することを含意するか否かによって、大きく(i)動作の実現(非実現)を含意する「実現系(actual)の可能」と(ii)動作の実現(非実現)を含意しない「潜在系(potential)の可能」に分けることができると指摘している。前者の「実現系の可能」は「様々な条件によって、ある動作を実現することが、可能・不可能である・あった(=実現する・した:実現しない・しなかった)」ことを表す。

(5) 三日かかってようやくレポートが書けた。

(6) 三日かかってもレポートが書けなかった。

(渋谷 1993,p.14)

後者の「潜在系の可能」は「様々な条件によって、ある動作を実現することが、やる(やった)かどうかは別にして、潜在的に可能・不可能である(あった)」ことを表す。

(7) 僕にはたとえ三日かけてもレポートなんか書けない。

(8) 最近は忙しいから、悠長にレポートなんか書いていられない。

(渋谷 1993,p.14)

渋谷(1993)のいう「潜在系の可能」と「実現系の可能」は、奥田(1986)の述べる「ポテンシャル」と「アクチュアル」にそれぞれ対応すると考えられる。

さらに、渋谷(1993)は可能表現と動作実現の関係について、特に過去形³⁾において、「実際に行為が実現する(した)ことを含意するものとあくまで潜在的な可能性を表すに過ぎないものの二つのタイプがある」と指摘している。

(9) 三日で論文が書けた。(実際に書いた)

(10) その頃は書こうと思えば三日で論文が書けた。(実際に書いたか否かは不明)

(渋谷 1993,p.2)

つまり、同じ過去形であっても、(9)のように「書く」という行為が過去において実際に実現したことを含意する場合は実現可能であり、(10)のように「書く」という行為が実際に行われたか否かが不明であり、「書ける」という可能性だけを表す場合は潜在可能である。したがって、同じ過去形を用いても、文脈によってその解釈は実現可能と潜在可能に分かれることになる。

2.3 中国語における可能表現

第1章で述べたように、中国語の可能表現は、①「能」「会」「可以」などの助動詞による形式と、②「得／不」のような可能補語による形式という二つの主要形式に整理できる。日中の可能表現の対応関係を検討するにあたり、これら二つの形式が中国語の主要な可能表現形式であることを前提として議論を進める。

日本語の可能表現に対応する中国語表現について、馬(2009)は、日本語可能表現のル形(現在形)の用法は、多くの場合、中国語可能表現の「能願動詞+動詞文」または「動詞+可能補語」という形式に訳すことができるため、日本語の潜在可能を表す用法を中国語可能表現に比較的容易に対応させることができると述べている。

【日本語可能表現のル形(現在形)】

(11) 田中さんは3か国語を話せる。(松岡 2000,p.83 ; 馬 2009 により引用)

田中能说三个国家的语言。(「能願動詞+動詞文」)

(12) 勉強したいのだが、忙しくて勉強できない。(松岡 2000,p.83 ; 馬 2009 により引用)

我想学习,但因为忙学不了。(「動詞+可能補語」)

(馬 2009,p.109)

しかし、日本語可能表現タ形(過去形)の用法、すなわち実現可能の用法においては、結果に焦点が置かれるため、中国語可能表現の「能+動詞文」や「動詞+可能補語」という形式に直接対応させて訳すことが難しく、中国語可能表現形式では表せない場合が多いと指

摘している。

【日本語可能表現のタ形（過去形）の肯定文】

- (13) 基礎からわかりやすく教えていただいて、これまで習ったところはほとんど理解できました。
承蒙您从基础开始通俗易懂的讲解，至今学习的知识基本上都理解了。
- (14) 最後の授業で見た映画も聞き取れた単語がいくつかあったので、嬉しかったです。
最后一次课课堂上看的电影也听懂了几个词，所以很高兴。
- (15) 父と母にありがとうと言えたときは胸がスッキリした。
向父母说出“谢谢”这句话时，心里很舒畅。
- (16) 今日は試験官の前でも、あがらないでちゃんと話せた。(高橋 2005,p.113 ; 馬 2009 により引用)
今天在考官面前也没有紧张，表述得很有条理。

(馬 2009,p.109)

以上のように、日本語可能表現過去形の肯定文の場合、中国語では「実現・完了」を表す動態助詞「了」(例 13)、または「結果補語」(例 14)、「方向補語」(例 15)、「様態補語」⁴⁾(例 16)などを用いて表現されることが多いと、馬(2009)は指摘している。

一方、日本語可能表現過去形の否定文について、馬(2009)は、ほとんどの場合、中国語の可能表現における過去の否定形式「没能+動詞+補語」で表すことができると述べている。

【日本語可能表現のタ形（過去形）否定文】

- (17) 初回の口座振替日に引き落とししできなかった場合は、割引は適用されません。
在第一个银行转账日没能转出款的情况下，不打折。
- (18) 三日かけても結局レポートは書けなかった。(渋谷 1993,p.14、馬 2009 により引用)
用了三天时间，结果却没(能)写出研究报告。

(馬 2009,p.114)

馬(2009)が指摘しているように、実現可能の肯定文の場合、中国語可能表現の「能+動詞文」や「動詞+可能補語」に対応させて訳すことが難しいが、否定文の場合には、中国語可能表現の過去否定形式「没能+動詞+補語」で表すことができる。

このことから、中国人日本語学習者が日本語の実現可能を学習する際に、否定の実現可能は習得しやすい一方、肯定の実現可能の習得が困難である可能性が高いと考えられる。

2.4 日本語教科書を資料として行われた先行研究

呉(2016)は、中国人日本語学習者が日本語の可能表現をどのように使用しているのか、また誤用が生じる要因は何かを明らかにすることを目的として、中国の大学で使用されている初級日本語教科書 5 種⁵⁾を対象に、可能表現の文型の取り扱い状況を調査した。その結

果、教科書における可能表現の説明および例文の提示が少ないことが指摘されている。しかし、呉(2016)の研究では、主に潜在可能に焦点を当てており、実現可能の導入状況や指導上の扱い方については十分な考察が行われていない。

村上(2015)は、市販の初級日本語教科書16種^⑥を対象に、可能形の扱われ方を調査した。調査においては、用例が提示されていれば文型として扱うという基準を採用している。結果として、潜在可能はすべての教科書で文型として扱われていたが、実現可能を文型として取り上げているのは6種であった。そのうち3種は可能形の文型として、他の3種は可能形と異なる文型で実現可能の例文を提示しており、いずれも否定形式を文型として取り上げていることが指摘されている。しかし、村上(2015)の調査結果を参照すると、これらの教科書における実現可能の扱い方には再考の余地がある。いずれの教科書も、実現可能を明示的な文法項目として体系的に説明しているわけではなく、例文を提示した上で、練習問題において可能形を扱う際に、潜在可能を表す文と実現可能を示す文が混在している。そのため、学習者は実現可能の意味に間接的に触れる機会はあるものの、それを独立した文法項目として明確に意識できるとは限らない。さらに、実現可能が否定形式で提示される場合、2.3節で述べたように、中国語の「能」と同様の発想が喚起されやすく、学習者が潜在可能と実現可能の区別を十分に考慮せず、両者を同一視してしまう可能性がある。したがって、否定形式の反復練習のみでは実現可能の理解を深めることは難しく、その指導法についてはさらなる検討が必要である。

III 研究の枠組み

先行研究で指摘されているように、日本の初級日本語教科書の多くは、実現可能を独立した文型として明示的に扱っていない。さらに、中国人日本語学習者は母語である中国語の影響を受け、実現可能のうちとりわけ肯定形式を適切に使用できない傾向があると考えられる。そこで本稿では、中国で使用されている初級日本語教科書を対象に、実現可能の扱われ方を調査し、学習者が実現可能を十分に運用できない要因の一つとして、教科書の記述や提示方法が影響している可能性について検討することを目的とする。

3.1 分析対象

本稿では、中国人日本語学習者の実現可能に対する理解に大きな影響を及ぼすと考えられる中国の日本語教科書を対象に、実現可能の取り扱い状況を調査する。調査対象は、中国の高等教育機関で使用されている初級日本語教科書である。国際交流基金(JF)の「2024年度海外日本語教育機関調査」によれば、中国における日本語学習者のうち、初等教育が1,482人(0.1%)、中等教育が284,488人(27.9%)、高等教育が477,869人(46.9%)、学校教育以外が255,358人(25.1%)であり、高等教育段階の学習者が全体の約半数を占め、最も多い。日本語教育の全体像を把握するためには、各教育段階の教科書を広く調査することが望ましいが、本稿では、学習者数が最も多く、かつ体系的な教育が行われている高等教育段階に焦点を当てて分析を行う。

また、2.4節で指摘したように、村上(2015)は日本国内で使用される初級日本語教科書

を対象に分析を行っている一方、中国国内の初級日本語教科書における実現可能の扱いについては、十分に明らかにされていない。以上を踏まえ、本稿では中国の高等教育機関で使われている初級日本語教科書を対象に、実現可能の扱われ方を中心に調査を行う。

教科書の選定にあたっては、販売実績が高く、使用者数が多いと考えられる日本語教科書 6 種（全 12 冊）を調査対象とした。また、教科書本冊では文法項目に関する解説が詳しく書かれておらず、併用されている学習者用参考書および教師用参考書に詳しく書かれている場合もあるため、それらについても確認を行った。

表 1 取り上げた中国の日本語教科書リスト

	略称	教科書（本冊）	学習参考書	教師指導書
1	『新日』	『新編日語』 第 1、2 冊	『新編日語学習参考』 1、2	『新編日語教学指南』 1、2
2	『総日』	『総合日語』 第一、二冊	『総合日語学習手冊』 第一、二冊	『総合日語教学参考書』 第一、二冊
3	『標日』	『中日交流標準日本語』 初級上、下	—	—
4	『日教』	『日語総合教程』 第 1、2 冊	『日語総合教程学習参考』 第 1、2 冊	—
5	『新経典』	『新経典日本語基礎教程』 第一、二冊	—	—
6	『基日』	『基礎日語総合教程』 1、2	—	『基礎日語総合教程教学参考書』 1、2

※一：該当資料なし

6 種の教科書はそれぞれ課の構成に違いが見られるものの、文法解説の提示方法には共通点がある。5 種の教科書では、本冊内に中国語による詳細な文法解説を掲載しており、1 種のみでは、別冊において同様の解説が提示されている。また、教科書内の例文については、多くの場合、中国語訳が付されているが、『総日』および『新経典』の例文には中国語訳が付いていない。

3.2 調査内容

本研究では、3.1 節で取り上げた教科書を対象に、実現可能の取り扱いの実態を明らかにすることを目的とし、実現可能がどのように導入・提示されているかに焦点を当て、以下の三つの観点から分析を行う。

① 実現可能の導入状況

各教科書において、実現可能が文法項目として明示的に導入されているか否かを確認する。

② 実現可能の肯定と否定の分布

実現可能の例文が、肯定形式と否定形式のいずれで多く提示されているかを比較・検討する。

③ 中国語訳の提示方法

実現可能に対応する中国語訳がどのように提示されているかを分析する。

IV 結果と考察

4.1 初級日本語教科書における実現可能の導入のあり方

本節では、調査結果に基づき、中国の初級日本語教科書における実現可能の導入のあり方を検討する。各教科書において実現可能がどの段階で、またどのような形式で提示されているかを明らかにした上で、その提示方法の特徴および傾向について考察する。なお、本節では実現可能の導入のあり方に焦点を当てるが、比較のため、潜在可能に関する調査結果も併せて示す。

4.1.1 実現可能に関する説明の有無

本節では、教科書本冊および参考書における文法解説の有無とその内容を検討する。具体的には、潜在可能と実現可能について、それぞれ明示的な文法解説の有無を確認し、解説が見られる場合には、その記述内容および提示のされ方を考察する。

6種の教科書および学習用参考書・教師用参考書を確認した結果、実現可能に関する明確な説明が確認できたのは『総日』(本冊および『総日教学参考書』)の1種のみであった。他の5種では、本冊および参考書のいずれにも、実現可能に関する記述は見られなかった。加えて、これら5種の教科書では、可能表現を扱う課における文法解説は、いずれも中国語で「具有某种能力或某种可能性(ある種の能力や可能性を持つ)」と説明されており、これは「能力可能」や「条件可能」といった潜在可能に該当する内容であり、実現可能の理解を促すような明確な説明は確認されなかった。以上より、多くの教科書では、実現可能を独立した文法項目として明示的に扱っていないことが示唆される。

以下では、明示的な文法解説が見られた『総日』における実現可能の扱われ方を検討する。まず、教科書本冊および教師用参考書(『総日教学参考書』)の文法解説から見ていく。『総日』では、潜在可能は第1冊第9課で文法項目として扱われるのに対し、実現可能は第2冊第9課で扱われている。すなわち、潜在可能が実現可能より早い段階で導入されていることが分かった。

『総日』および『総日教学参考書』における実現可能(第2冊第9課)の説明内容を確認し、表2に示す。表2の左側には教科書に掲載された解説の原文を、右側には筆者による日本語訳を示した。

表2 『総日』での実現可能に関する解説

『総日』第2冊9課	
3.V (ら) れた/V ことができた/N できた<最終実現> 意义:表示动作主体期望的事情最终得以实现或目标达成, 含有难得, 不易之意。 译文:(终于)……成了;(总算)…… 接续:动词的能动态 V (ら) れる+た 动词的词典形+ことができた 动作性名词+できた 说明:经常与副词「やっと」「ようやく」等搭配使用。 比较 a 和 b 的语义差别 a. クラブ活動で憧れの先輩と会った。 (叙述见面的事实) b. クラブ活動で憧れの先輩と会えた。 (叙述见面的事实, 含有期待且难得之义) (p.211、p.212)	3.V (ら) れた/V ことができた/N できた<最終的な実現> 意味:動作主が望んでいたことが最終的に実現したり、目標を達成したりすることを表す。「難しかったが実現した」というニュアンスを含む。 訳:(やっと)……できた、(ようやく)……できた。 接続:動詞の可能形+た 動詞の辞書形+ことができた サ変名詞+できた 説明:「やっと」「ようやく」などの副詞とともに使われることが多い。 比較:a と b の意味の違い a. クラブ活動で憧れの先輩と会った。 (単に「会った」という事実を述べている) b. クラブ活動で憧れの先輩と会えた。 (会うという望みが叶い、「期待していた」「やっと実現した」という気持ちを含む)
『総日教学参考書』第2冊9課	
2.V (ら) れた/V ことができた/N できた<最終実現> 该用法译成汉语时, 由于一般不出现能动的表达方式, 所以学生不容易掌握。可设置语境进行练习, 掌握最终达成愿望或目标时的说法。经常与「やっと」「ようやく」「ついに」「なんとか」等副词搭配使用。 (p.96)	2.V (ら) れた/V ことができた/N できた<最終的な実現> この用法は、中国語では一般的に「可能(能動)」の表現が使われないため、学習者にとって習得が難しい傾向がある。学習者が願望や目標を最終的に達成した状況を表す言い方を身につけられるよう、具体的な文脈を設定して練習を行うことが効果的である。 また、この表現は「やっと」「ようやく」「ついに」「なんとか」などの副詞とともに用いられることが多い。

『総日』本冊では、「動作主が望んでいたことが最終的に実現したり、目標を達成したりすることを表す。」という実現可能の意味を「望みの実現」や「目標達成」という心理的・結果的側面から説明している。特に「難しかったが実現した」というニュアンスを明示的に示していることは、実現可能の特徴を理解させる上で有効であるといえる。また、「会った／会えた」という比較を用いて、無標の動詞文が単なる事実叙述であるのに対し、実現可能が達成感や努力の結果を表す点を説明していることも、学習者にとって理解しやすい提示方法であると考えられる。

『総日教学参考書』の説明では、「この用法は、中国語では一般的に「可能（能動）」の表現が用いられないため、学習者にとって習得が難しい傾向がある。」と指摘している。これは教科書本冊ではなく、教師用の指導書に記述されているものであるが、この点に関して明確な言及があることは注目に値する。しかし、本冊に該当する説明が見られないことから、実際に学習者にどの程度指導が行われているかについては、教師に任されている可能性が高いと考えられる。

次に、『総日』において実現可能の解説として提示されている例文の一部を示す。なお、教科書本冊および教師用参考書には例文の中国語訳が付されていないため、以下に示す中国語訳は筆者によるものである。

- (19) キャンセルが出たみたいで、昨日やっと予約できたんです。

好像有人取消了预约, 我昨天终于预订上了。

- (20) ずっと欲しかった本が買えたので嬉しい。

因为(终于)买到了一直想要的书, 感到很高兴。

- (21) 3 回目でやっと試験に合格できた。

第三次考试终于合格了。

(『総日』第 2 冊 9 課、p.212)

- (22) 初めての課題発表だったが、分かりやすく説明できたと思う。

虽然第一次做课题发表, 但我觉得讲解得很清楚。

- (23) おかげさまで能力試験に合格できた。

托您的福, 通过了能力考试。

(『総日教学参考書』第 2 冊 9 課、p.96)

『総日』では、実現可能の例文はいずれも肯定形式で提示されていることが確認された。対応する中国語訳を検討すると、多くの例文は、「動詞＋方向補語」(例 19)、「動詞＋結果補語」(例 20)、「動詞＋様態補語」(例 22)、各種補語を用いて実現可能の意味を表していることがわかる。一方で、(21)、(23) のように、完了を表す動態助詞「了」のみを用いて実現可能を表している例も見られる。このような例では、文中に共起する「终于(やっと)」や「托您的福(おかげさまで)」といった副詞・句が、動作の達成や結果成立を明示する役割を果たしている。したがって、学習者はこれらの表現を手がかりとして、実現可能の意味を文脈から理解している可能性があると考えられる。

最後に、練習問題について見ておく。『総日』の第 2 冊第 9 課の「文法練習」には、表 3 のような練習問題が掲載されている。

表3 『総日』での練習問題

『総日』第2冊9課
B 文法練習 例に倣って練習しましょう。 4. V (ら) れた/V ことができた/N できた 例 やっと自転車に乗る→やっと自転車に乗れた。 (1) やっとおいしい餃子を作る→やっとおいしい餃子が作れた。 (2) ついに憧れの北京に来る→ついに憧れの北京に来られた。 (3) 2週間かかってやっとレポートを書く→2週間かかってやっとレポートが書けた。 (4) 早めに家を出て、何とか始発に乗る→早めに家を出て、何とか始発に乗れた。 (p.216)

このように、文中の動詞を可能形の過去形に変換させる練習は、形式面での習得には一定の効果があると考えられる。他方で、学習者が「努力や条件を満たした結果、実現に至った」という実現可能特有の意味を理解するという点では、十分とはいえない。

以上より、『総日』では実現可能に関する明確な文法解説が見られ、肯定形式の用例および練習問題も提示されていることが確認された。しかし、説明および練習の設計は、学習者の実現可能の意味的特徴や使用条件を十分に理解させるという点では、なお不十分であると考えられる。このような教科書における扱いの不十分さにより、学習者は実現可能について明示的に学ぶ機会が限られ、その結果、実現可能の用法や意味的特徴に関する理解が十分に形成されにくい可能性が高いと言える。

この結果から、村上(2015)が日本で出版されている初級教科書の調査において指摘したように、中国の初級日本語教科書においても実現可能に関する指導が十分に行われていないことが示唆される。

4.1.2 明示的な説明のない教科書における実現可能の扱い

前節(4.1.1節)で明らかになったように、実現可能を独立した文法項目として明示的に取り上げている教科書は『総日』1種のみであった。他の5種では、文法解説において実現可能に関する記述は見られなかった。では、これらの教科書では実現可能が扱われていないのだろうか。本節では、明示的な文法解説を伴わない教科書において、実現可能がどのように提示されているかを中心に、その扱われ方を検討する。

4.1.2.1 実現可能と潜在可能の例文の初出課

第1章でも述べたように、実現可能は文法項目として明示的に指導されないまま、例文のみが先行して提示される場合がある。そこで本節では、文法項目として取り上げられているか否かにかかわらず、各教科書における潜在可能および実現可能の例文の初めて出現する課を確認し、その結果を表4に示す。

表 4 各教科書における潜在可能と実現可能の例文の初出課

教科書	潜在可能	実現可能
『新日』	第 1 冊 9 課	第 1 冊 10 課
『総日』	第 1 冊 9 課	第 1 冊 9 課
『標日』	上 11 課	下 29 課
『日教』	第 1 冊 11 課	第 1 冊 9 課
『新経典』	第 1 冊 13 課	第 1 冊 13 課
『基日』	第 1 冊 7 課	第 1 冊 8 課

表 4 より、いずれの教科書にも潜在可能および実現可能を示す例文が含まれていることが確認された。なかでも『総日』と『新経典』の 2 種では、可能表現が文法項目として扱われる課において、概ね実現可能の例文が初めて出現していた。これに対し、『新日』、『標日』、『基日』では、可能表現が文法項目として取り上げられる課では潜在可能に関する説明と例文のみが示され、実現可能の例文はその後の別課で初めて出現していた。なお、『日教』では、表面的には実現可能が潜在可能よりも先に登場しているように見える。しかし、第 1 冊 9 課に見られる可能表現は「眠れる」のみであり、当該課では自動詞「眠れる」が語彙として提示されているにとどまる。したがって、この「眠れる」を、可能表現の用法を学習させるための例文として捉えることは必ずしも適切ではないと考えられる。

4.1.2.2 実現可能の肯定形式と否定形式

前節(4.1.2.1)で示したように、『総日』以外の 5 種の教科書では、実現可能は独立した文法項目として明示されていないものの、いずれの教科書にも実現可能を表す例文が含まれていることが確認された。では、これらの教科書では、実現可能はどのような形式で提示されているのだろうか。2.3 節で述べたように、否定形式の実現可能は中国語表現と対応づけやすい一方、肯定形式は対応づけにくい傾向がある。また、2.4 節で取り上げた先行研究では、日本の初級教科書において否定形式の実現可能が多く取り上げられることが指摘されている。以上を踏まえ、本節では、実現可能の用例が提示されているか否かに加えて、その形式にも着目し、例文が肯定・否定のいずれの形式で多く提示されているかを比較・検討する。具体的には、各教科書における肯定形式および否定形式の出現数を集計し、その結果を表 5 に示す。

調査の結果、6 種の教科書における実現可能を表す例文は、合計で 175 例確認された。そのうち、肯定形式の例文は 78 例、否定形式の例文は 97 例であり、否定形式の方がやや多い傾向が見られた。ただし、その差は顕著ではなく、全体として肯定・否定の両形式が比較的均衡して取り上げられているといえる。

詳細に見ると、『新日』(肯定 1 例／否定 15 例) および『標日』(肯定 2 例／否定 13 例)では、例文の大半が否定形式の実現可能として提示されている。『新経典』(肯定 19 例／否定 26 例)や『日教』(肯定 12 例／否定 20 例)では、否定形式が多いものの、一定数の肯定例が含まれており、他の教科書と比べて肯定形式の実現可能をより多く取り入れている。

『総日』(肯定 32 例／否定 19 例) および『基日』(肯定 10 例／否定 4 例) では、肯定形式の実現可能の方が優勢であった。

表 5 実現可能における肯定と否定の例文数

教科書	肯定	否定	合計
『新日』	1	15	16
『総日』	32	19	51
『標日』	2	13	15
『日教』	12	20	32
『新経典』	19	26	45
『基日』	10	4	14
合計	78	97	175

以上の結果から、実現可能の肯定形式が比較的多く見られる教科書がある一方で、多くの教科書では依然として否定形式の実現可能を中心に提示する傾向が確認された。この肯定形式と否定形式の偏りは、実現可能の例文が特定のパターンの中で提示されることと関係している可能性がある。この点については、次節(4.1.2.3)で詳述する。

また、否定形式を中心とする提示は、中国語母語話者にとっては、「没能」などの中国語表現と容易に対応づけられるため、表層的には理解しやすいものの、潜在可能との意味や用法の違いを十分に把握しにくくする可能性がある。

したがって、否定形式の実現可能に偏った例文提示では、中国人日本語学習者が肯定形式の実現可能に接する機会が限られているため、肯定形式の実現可能が定着しにくくなる一因となり得る。この点は、今後の教科書設計や指導法の観点から再検討が求められる。

4.1.2.3 実現可能の現れ方

他の 5 種の教科書および参考書を確認したところ、『総日』のように実現可能に関する明確な記述は見られなかった。しかし、4.1.2.1 節で示したとおり、これらの教科書にも実現可能を示す例文自体は確認されている。では、実現可能に関する明確な文法解説を持たない 5 種の教科書では、実現可能の例文はどのように提示されているのか。これを把握するため、以下の二つの場合に分けて検討する。

- a. 可能表現の文法解説とともに提示される例文の中に、実現可能の例文が含まれている場合
 - b. 他の文法項目の例文の中に実現可能を示す文が含まれている場合
- a. 可能表現の文法解説とともに提示される例文の中に、実現可能の例文が含まれている場合

4.1.1 節で指摘したように、6 種の教科書のうち 5 種では、実現可能が文法項目として独立して取り上げられていない。しかし、潜在可能と実現可能を区別しないまま、潜在可能を扱う課の文法解説の中に、実現可能を表す用例が混在していることが確認された。

具体的には、『新日』および『新経典』の2種の教科書において、可能表現を文法項目として扱う課では明確な文法解説は見られなかったものの、例文の中にそれぞれ2文の実現可能を示す用例が含まれていた。それ以外の例文はすべて潜在可能に該当していた。ただし、これら4文はいずれも実現可能の否定形式である。以下にその例を示す（特に記載のないものは、教科書掲載の中国語訳である）。

- (24) バスが込んで乗れませんでした。

车挤的根本就乘不上。

- (25) きょうの帰りが遅かったので、八時のニュースは見られませんでした。

昨天回家晚了、所以没能看八点的新闻。

（『新日』第2冊7課、p.107）

- (26) ゆうべ遅くまで起きていたので、今朝早く起きられませんでした。

因为昨晚熬夜，所以今天早上没(能)起来床。筆者訳

- (27) A: CDを入れましたが、音楽が聞けませんでした。どうしてですかね。

B: さあ、よく分かりません。宋さんに聞いた方がいいですよ。

A: 我放了 CD, 但是没能听到音乐。怎么回事呢?

B: 唉, 不太清楚。最好问问宋吧。筆者訳

（『新経典』第1冊13課、p.278）

例(24)の「乗れませんでした」は、中国語訳で「乗不上」とされており、この形式は動詞「乗」と補語「上」の間に「不」を挿入する形で、中国語における潜在可能の否定表現として一般的に用いられている。一方、例(25)～(27)では、否定を表す「没」に助動詞「能」を伴うことで「実現しなかった」状況を表している。このように、中国語訳において「能」が用いられている場合、学習者はこれらの文を潜在可能の否定と同様の構文として理解しやすく、結果として潜在可能と実現可能の区別を十分に認識できない可能性が高い。

このように、可能表現を扱う課に潜在可能と実現可能の例文が混在し、例文がすべて否定形式で提示されているため、学習者が実現可能の意味を正確に把握するうえで十分な助けとはなりにくい。さらに、教科書では実現可能の用法を明示的に説明していないにもかかわらず、学習者がこれらの用例に対して違和感を抱かないのは、それらがすべて否定形式であり、中国語訳として「没能」に対応する表現として理解されているためであると考えられる。

b. 他の文法項目の例文の中に実現可能を示す文が含まれている場合

『総日』以外の5種の教科書では、文法解説自体は他の文法項目に焦点を当てているものの、その中に実現可能を示す文が含まれている場合がある。すなわち、これらの教科書では、実現可能が独立した文法項目として明示的に扱われてはいないが、他の文法項目を説明する過程で実現可能を表す例文が提示されていることになる。

実現可能の例文は、「～ようとする」「～おかげで／～おかげだ」「～すぎる」「～のに」などの文法項目を扱う中で、出現していた。

まず、「～ようとする」という文法項目は3種の教科書に共通して掲載されており、『新

日』では「承接意志動詞, 表示努力尝试做某事。否定则表示没有做某事的意愿。(意志動詞に接続し、ある行為をしようと努力・試みることを表す。否定形では、その行為をしようとする意志がないことを表す。))」、『新経典』では「表示努力做某事。(何かをしようと努力することを表す。))」、『基日』では「表示为实现某动作, 行为而作出努力, 相当于“(努力)做某事…”。(ある動作や行為を行うために努力することを表し、「(努力して) ~する」に相当する。))」と説明されている。いずれの教科書においても、「努力して何かをしようとすることを表す」という共通する解説が見られた。実際の例文を確認すると、以下のような例が挙げられている。

- (28) いくら思い出そうとしても、その人の名前が**思い出せませんでした**。
(『新日』第2冊8課、p.124)
- (29) 好きな人に告白しようとしたが、急に恥ずかしくなって何も**言えなかった**。
(『新経典』第2冊3課、p.41)
- (30) 今朝5時半に起きようとしたが、**起きられませんでした**。
(『基日教学参考書』第1冊11課、p.168)

これらの用例はいずれも、「~しようとしたが、実現しなかった」「~しようと努力したが、うまくいかなかった」といった未達成の場面を描いている。したがって、「~ようとする」は単なる意志表現としてではなく、「試みたが実現しなかった」という状況で用いられる傾向があり、否定の実現可能と共起しやすいと考えられる。

一方、「~おかげで」を文法項目として扱う中に、実現可能を表す文が複数確認された。たとえば、以下の例が挙げられる。

- (31) 「志望校に**入れて**、よかったですね。本当によくがんばったと思います。」「いいえ、すべて先生のおかげです。そうでなければ、とても無理です。」
(『日教』第2冊14課、p.194)

上記の例は、「努力・支援・条件といった外的要因により、ある行為が実現した」という意味を表している。すなわち、「~おかげで」は、実現可能の成立の要因を明示的に表す表現であり、肯定の実現可能と共起しやすいと考えられる。また、「~でなければ、とても無理です」という文によって、肯定と否定の対照を通じて「条件が整えば実現できる／整わなければ実現できない」という因果関係が明確に提示されている。この例から、「~おかげで」を扱う文脈は、学習者に実現可能の成立条件および背景要因を理解させる上で有効であると考えられる。

また、実現可能が練習問題として登場する例は見られたが、その多くは他の文型のパターン練習の一部に含まれている。たとえば、『新日』では次のような練習が提示されている。

- (32) 例：文章は長いです。わかりにくいです。→文章が長すぎてわかりにくいです。

⑤難しかったです。誰でもできませんでした。

→難しすぎて、**誰でもできませんでした**。

(『新日』第2冊2課、p.26)

この練習の文法目標は「～すぎる」の用法にあり、実現可能の習得を意図したものではないと考えられる。

同様に、『標日』では、下41課の「受身文」や下42課の「～のに」の文型練習の中に、以下のような例が含まれている。

(33) 夜中に赤ちゃんが泣きます／寝られませんでした

→夜中に赤ちゃんに泣かれて、**寝られませんでした**。

(『標日』下41課、p.195)

(34) 目覚ましをかけませんでした／起きられました

→目覚ましをかけなかったのに、**起きられました**。

(『標日』下42課、p.204)

これらの練習にも実現可能を示す文が含まれているが、学習項目の中心はあくまでも「受身」や「～のに」であり、「寝られませんでした」、「起きられました」といった部分は、既存文をそのまま用いているにすぎない。したがって、学習者に実現可能の意味や用法の理解を促す練習になっているとは考えにくい。

一方、『新経典』では、『新日』や『標日』とは少し異なり、「～ようとする」と組み合わせた会話練習が提示されている。

(35) 例：A：今日、早く起きようとしましたが、**できませんでした**。

B：そうですか。

(1) A：今日、早く寝ようとしたのですが、**できませんでした**。

B：そうですか。

(2) A：今日、中国語を勉強しようとしたのですが、**できませんでした**。

B：そうですか。

(『新経典』第2冊12課、p.190)

このように、「～ようとする」と「できませんでした」が組み合わせられて提示されることで、「意図はあったが実現に至らなかった」という文脈が示され、「試みたが達成できなかった」という状況的意味を理解する可能性がある。実現可能そのものを直接的に焦点化しているわけではないものの、この用例は学習者に実現可能の理解を促す一つの有効なパターンといえるだろう。

ただし、この練習では「できませんでした」の形のみが用いられており、他の可能動詞による同様の練習は見られなかった。そのため、学習者が「できませんでした」以外の実現可能を運用する機会は限定的である。

以上のように、教科書の練習問題における実現可能の扱いは、主に他の文型練習の一部として登場するにとどまり、実現可能を独立した文法項目として体系的に練習させる構成にはなっていない。その結果、学習者は実現可能を意識的に理解し、適切に使用するための練習機会を十分に得られていないと考えられる。この点は、今後の教材設計において改善が求められる重要な課題である。

V おわりに

本研究では、中国の高等教育機関で使用されている初級日本語教科書 6 種およびそれに対応する学習者用参考書・教師用参考書を対象に、実現可能の取り扱い状況を分析した。その結果、すべての教科書において実現可能を示す例文が確認されたものの、その提示方法には顕著な差が見られた。実現可能を独立した文法項目として明示的に導入しているのは『総日』のみであり、その他の教科書では、別の文法項目の例文や練習問題の中に付随的に登場するにとどまっていた。これらの結果から、村上(2015)が日本で出版されている初級教科書に関する調査で指摘したように、中国の初級日本語教科書においても、実現可能に関する指導が十分に行われていないことが示唆される。

また、練習問題の分析からは、他の文型のパターン練習に実現可能の用例が含まれている場合があるものの、学習者がその意味を理解し、運用できるように設計されているとはいえない。さらに、提示されている例文を見ると、肯定形式よりも否定形式で提示される傾向が確認された。否定形式を中心とする提示は、中国語母語話者にとっては、「没能」などの中国語表現と容易に対応づけられるため、潜在可能と実現可能の区別を十分に認識できない可能性が高いと考えられる。このように、否定形式の実現可能に偏った例文提示は、中国人日本語学習者にとって、肯定形式の実現可能に触れる機会が少なく、定着しにくいとも考えられる。

以上の結果から、中国の高等教育機関向け初級日本語教科書においては、実現可能の明示的説明および体系的な導入・練習機会が全体として不足しており、それが中国人日本語学習者による実現可能の適切な運用を困難にする要因の一つとなっていることが示唆される。

学習者が実現可能を潜在可能と区別して理解し、文脈に応じて自然に実現可能を使えるようにするためには、教科書段階で、両者の意味の差を明示したうえで、無標の動詞との対照を含む文脈提示を行い、肯定・否定の両形式を段階的に配置しながら練習へとつなげる、といった構成上の工夫が求められる。特に、否定形式のみの反復に偏らず、達成に至る過程・条件を明示する表現と組み合わせて肯定形式の実現可能を指導することは、意味的混同を抑制するうえで有効であろう。

本研究では初級日本語教科書を対象に分析を行ったが、初級段階で扱われていない文法項目であっても、中級以降の教科書で体系的に取り上げられる可能性がある。したがって、今後の課題として、中国の中級日本語教科書において実現可能がどのように取り上げられているかをさらに検証し、学習段階に応じた導入方法の在り方を明らかにしていきたい。

(神戸大学国際文化学研究科博士後期課程学生)

注

- 1) 渋谷 (1993) は、(B)「レル」および「書カレル」が括弧に入れているのは、それは、これらの形が現在ではあまり用いられなくなっているためであり、(A)の「見レル」が括弧に入っていないのは、その形が現在でも一般的に用いられていると判断したためである。
- 2) 奥田 (1986) は、*arukeru, hasireru, hanaseru, yomeru* のような動詞の形を《可能動詞》と呼び、それに対して、これらの元の形になっている *aruku, hasiru, hanasu, yomu* のような動詞の形のことを《現実動詞》と呼んでいる。
- 3) 可能動詞の過去形用法について、小矢野 (1979) は、可能動詞の過去形用法及び現在形用法を比較し、過去形用法には以下の五つの用法があるとしている。(i)「過去の特定の時間における可能性・能力の実現を表す」(鈴木重幸 1972)(ii)反実仮想(iii)未来の特定の時点における可能性・能力の実現を表す(iv)「過去における可能性・能力」(鈴木重幸 1972)(v)「～たものではない」の形。このうち、(i)は、実現可能に相当し、一方、(iv)と(v)は、潜在可能に該当する。なお、(ii)および(iii)は、典型的な実現可能の用法とはいえないため、本稿では分析の対象から除外することとする。
- 4) 劉 (2001) は、結果補語を「表示動作状態的结果」(p.534)（「動作の結果として生じた状態を表すもの」）とし、「打破了」「买到了」などを例に挙げている。方向補語については「有时不表示方向, 而表示动作有结果或达到了目的」(p.548)（「ときに方向そのものを示さず、動作に結果があることや目的が達成されたことを示すもの」）と述べ、「想出」「飞过」「买下」などを例示している。様態補語は「主要指动词后用“得”连接表示动作的结果状态的补语」(p.596)（「動詞の後に『得』を介して接続され、動作の結果状態を表す補語」）とされ、「气得大喊」「听得入迷」などが該当する。
- 5) 呉 (2016) が調査対象とした中国の日本語教科書は以下のとおりである。『新编日语』1・2、『综合日语』(合計 4 冊)、『新世纪日语教程』、『大家的日语』初級 I・II、『新版中日交流标准日语』初級 上・下
- 6) 村上 (2015) が対象とした日本語教科書(計 16 種)は以下のものである。『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE I/II/III(第 3 版)』、『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE I/II/III(第 2 版)』、『みんなの日本語初級 I/II (第 2 版)』、『初級日本語げんき I/II(第 2 版)』、『にほんご 90 日 1/2/3』、『語学留学生のための日本語 I/II』、『学ぼう!にほんご初級 1/2 (第 4 版/第 3 版)』、『はじめよう日本語初級 1/2 (改訂版)』、『J.Bridge for Beginners 1/2 (第 2 版/初版)』、『日本語初級大地 1/2』、『初級日本語 上/下 (新装改訂版)』、『日本語 5 つのとびら初級編 1/2』、『NEJ 1/2』、『初級日本語 あゆみ 1/2』、『できる日本語 初級/初中級』、『文化初級日本語改訂版 I/II』

参考文献

- 大場美穂子.2012.「実現可能文の用法について」『日本語と日本語教育』40:1-17 慶應義塾大学日本語・日本語教育センター
- 奥田靖雄.1986.「現実・可能・必然(上)」『ことばの科学 1』 むぎ書房
- 小矢野哲夫.1979.「現代日本語の意味と用法 (I)」『大阪外国語大学学報』45:83-98 大阪外国語大学
- 呉志寧.2016.「日中両言語における可能表現に関する対照研究:日本語教育における可能表

現のあり方について」白百合女子大学博士論文

渋谷勝己.1993.「日本語可能表現の諸相と発展」『大阪大学文学紀要』33-1 大阪大学

朱德熙.1982.『文法讲义』商务印书馆

鈴木重幸.1972.『文法と文法指導』麦書房

スリーエーネットワーク.2013.『みんなの日本語初級Ⅱ第2版 本冊』スリーエーネットワーク編

高橋太郎他.2005.『日本語の文法』ひつじ書房

独立行政法人国際交流基金.2025.『2024年度海外日本語教育機関調査』

<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/information.html>

日本語記述文法研究会編.2009.『現代日本語文法 2—第3部 格と構文・第4部 ヴォイス』くろしお出版

馬俊栄.2009.「日本語可能表現のタ形用法に対応する中国語表現をめぐって」『日中言語対照論集』11:121-180 日中言語対照研究会

松岡弘他.2000.『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

村上佳恵.2015.「日本語の実現可能の取り扱いについて—初級の教科書の調査より—」『学習院女子大学紀要』17:147-162

劉月華・潘文・故韓.2001.『实用现代汉语语法(增订本)』北京:商务印书馆

調査文稿

- 1) 周平・陳小芬 編. 2016.『新編日語』(重排本) 1. 上海外語教育出版社
周平・陳小芬 編. 2017.『新編日語』(重排本) 2. 上海外語教育出版社
周平・陳小芬 編. 2016.『新編日語學習參考』1・2. 上海外語教育出版社
曹宇 編. 2019.『新編日語(重排本)教學指南』1・2. 上海外語教育出版社
- 2) 彭广路・(日)守屋三千代 总主編. 2022.『総合日語』(第三版)第一冊. 北京大学出版社
彭广路・(日)守屋三千代 总主編. 2023.『総合日語』(第三版)第二冊. 北京大学出版社
刘健・何琳 主編. 2022.『総合日語第一冊教學參考書』(第三版). 北京大学出版社
杨峻・冷丽敏 主編. 2023.『総合日語第二冊教學參考書』(第三版). 北京大学出版社
何琳・刘健 主編. 2022.『総合日語第一冊學習手冊』(第三版). 北京大学出版社
何琳・毕晓艳 主編. 2023.『総合日語第二冊學習手冊』(第三版). 北京大学出版社
- 3) 人民教育出版社・光村図書出版株式会社 編. 2013.『中日交流 标准日本語』第2版 初級上・下. 人民教育出版社
- 4) 陈小芬 編. 2014.『日語綜合教程』第1冊. 上海外语教育出版社
许慈慧・高洁・林彬 編. 2014.『日語綜合教程』第2冊. 上海外语教育出版社
盛勤・沈淑娟・陆洁 編. 2018.『日語綜合教程第一冊學習參考』. 上海外语教育出版社
林彬・高丽霞・伏泉 編. 2018.『日語綜合教程第二冊學習參考』. 上海外语教育出版社
- 5) 于飞 总主編. 2023.『新經典日本語基礎教程』第一冊(第三版). 外语教学与研究出版社
于飞 总主編. 2024.『新經典日本語基礎教程』第二冊(第三版). 外语教学与研究出版社
- 6) 曹大峰 編. 2010.『基礎日語綜合教程』1. 高等教育出版社

潘寿君 編. 2011. 『基礎日語総合教程』 2. 高等教育出版社

曹大峰 編. 2010. 『基礎日語総合教程(教学参考書)』 1. 高等教育出版社

潘寿君 編. 2011. 『基礎日語総合教程(教学参考書)』 2. 高等教育出版社